

第4章「みんなの力がつながる観光・産業づくり」

○「住民が元気になる交流観光づくり」

緑豊かな森林や奥多摩湖など豊富な水環境が豊かな町には、その自然環境を求めて年間212万人を超える観光客が訪れていると推計されております。アフターコロナにおいて、外国人を含めた観光客は増加しており、観光地として、しっかりとした受入れ態勢を整えてまいります。

また、森林セラピー専用ロード「香りの道 登記トレイル」の再整備を含め、町の特色を活かした事業の推進を図ってまいります。



▲森林セラピー専用ロード「香りの道」

○「奥多摩ならではの地域産業の推進」

引き続き、野村不動産ホールディングス株式会社が設立した「森をつなぐ合同会社」と連携し、健全な森林の育成や地域材を活用するなど、持続可能な森林経営の実現に向け、取組を進めるとともに、森林環境議

与税及び令和6年度から始まる森林環境税の積極的な活用を図ってまいります。

また、この4月には、内水面漁業の振興などに携わる、地域おこし協力隊員1名の採用を予定しており、現隊員2名と連携し、地域資源を活用した取組が新たな付加価値を生み出し、新たな「6次産業化」へ繋がるよう、引き続き、支援をしてまいります。

○「観光・産業づくりを推進する力の強化」

奥多摩観光協会やおくたま地域振興財団、JR東日本八王子支社等と連携しての各種イベントやPR事業の実施など、魅力あふれる奥多摩町の観光や特産物等の情報を提供し、観光客の誘致につなげてまいります。

また、JR東日本と株式会社さとゆめの共同出資会社「沿線まるごと株式会社」では、沿線全体をホテルに見立てる地域活性化プロジェクト「沿線まるごとホテル」の中核となる宿泊施設のブランド名を「S a t o l o g u e (さとログ)」とし、そのブランド名のもと、古里地区において、この4月以降、レストラン棟とサウナ等を開業し、令和6年度中には、客室棟を開業することを決定いたしました。この開業を機に、「青梅線沿線をまるごと楽しめるホテル」の世界観を構築し、新たな滞在型観光、マイクロツーリズムの創出へ向け、引き続き、連携を図ってまいります。

第5章「住民と行政がともに考え、ともに築く、住みよい・住みたいまちづくり」

○「官民協働による定住対策とまちづくり」

過疎化による少子高齢化対策や地域コミュニティの維持へつなげるため、空家の活用や子育て応援住宅の建設を実施し、町内への定住、移住が図られるよう定住対策事業を推進してまいります。

事業の実施にあたっては、地権者や空家所有者をはじめ、地域の皆様のご理解、ご協力が不可欠であります。今後も、皆様方のご理解、ご協力を得ながら定住施策を推進してまいります。

○「成果を重視した行政改革の推進」

第5次行政改革大綱に基づく『量から質への転換を目指した「しごと・ひと・しくみ」の改革』を推進し、町民皆様に満足いただける行財政運営が図られるよう努めてまいります。

また、多様な行政需要への対応と各課の業務を最適化するため、限られた職員数の中、役場組織の見直しを行うとともに、役場内すべての業務の現況調査及び

分析により、業務を可視化し、業務の効率化及び人的資源の配分、抜本的な業務改革を行うための業務量調査を実施し、新庁舎建設へ向け、DXの推進を図ってまいります。

○「身の丈にあった健全な財政運営の推進」

自主財源である町税が年々減少を続け、国や都へ財源を依存している厳しい財政状況の中、各種事業の見直し・再構築を図りながら、事業の実施にあたっては、限りある財源を効果的、効率的に執行し、身の丈にあった健全で堅実な財政運営を推進するとともに、将来の財政需要を見通し、引き続き、基金への積立及び活用を計画的に行ってまいります。

また、町税の収納率は、依然高い水準を維持しており、町税は減少傾向にあるものの貴重な自主財源でありますので、今後も収納事務の対策を緩めることなく、自主財源の確保を図ってまいります。